

三重DARC・三重県  
平成24年1月29日(日)

三重県人権センター  
多目的ホール  
(津市一身田大古曾693-1)

## 平成23年度薬物フォーラム

10:00～12:30

シンポジウム

入場料：無料

「依存症と発達障がい」

～ギャンブル問題の視点から～

シンポジスト

■中村努 氏

(NPO 法人ワンダーポート施設長)

■稲村厚 氏

(NPO 法人ワンダーポート理事長  
稲村司法書士事務所)

コーディネーター

■三重ダルク施設長 市川岳仁

三重県こころの健康センター  
特定非営利活動法人三重ダルク  
共催

## 三重DARCフォーラム

13:30～16:30

入場料：1000円

薬をやめても

うまくいかない!?

研究報告会

重複障がいを持つ仲間の地域移行を考える

“東紀州プロジェクト”

ファイザー製薬より助成を受け、重複障がい  
を持つ薬物依存症者の地域移行・就労支援に関  
する研究を行ってきました。

その成果報告会を行います。

特定非営利活動法人三重ダルク主催

問い合わせ先

特定非営利活動法人 三重ダルク

〒514-0033 津市丸之内1-16

〒514-0004 津市栄町3丁目130

Tel/Fax: 059-222-7510

HP: <http://miedarc.com/>

※背景は三重ダルクプログラムにてメンバーが描いた絵を使用しています。

(午前の部 薬物フォーラム) シンポジスト プロフィール ・ 発表概要

◆中村 努 (なかむら つとむ)

NPO 法人ワンダーポート施設長

1967年東京都生まれ。國學院大學文学部文学科卒業。大学卒業後に都内私立高校の非常勤講師に就くが、24歳のときにギャンブルが原因で借金に行き詰まる。失踪状態で、29歳のとき、書店で手に取った本がきっかけで、自助グループや依存症の回復施設につながり、ギャンブルが止まる。32歳のときにワンダーポートの設立にかかわり現在に至る。好きなことは徹底的に追求するが、覚めやすい。整理整頓が苦手。診断を受ければ、AD/HDと出ると思います。趣味は鉄道風景写真を撮ること(自閉的でもある)。

ワンダーポートの活動を始めたときは、アディクションアプローチや12ステップは素晴らしいと思いました。その後発達障害の概念を知り、これも有効だと確信しました。この二つがあれば、ワンダーポートに来る多くの人の問題は解決できると思えました。しかし、最近、アディクションアプローチでも発達障害からのアプローチでもうまく支援できない人が増えています。こうした人に対応するためには、色々な知識を持つ必要性を痛感すると同時に、(疾病)概念を礎に人を支援することへの限界を感じています。人間が人間を支援するとはどういうことなのかを考えながら、日々悩んでいます。「依存症」について確たる答えは私の中にありませんが、ワンダーポートの活動から見えてくる課題と現状をお伝えできればと思います。

◆稲村 厚 (いなむら あつし)

NPO 法人ワンダーポート理事長

1959年生まれ。1982年日本大学法学部卒業。  
2011年南山大学人間文化研究科教育ファシリテーション専攻修了。  
1988年司法書士試験合格。1989年司法書士登録、  
川崎市多摩区にて司法書士事務所を開業。  
主な著作「司法書士の羅針盤」日本評論社 編共著。  
「病的ギャンブラー救済マニュアル」PHP出版 共著。

ギャンブルと密接に関わる多重債務からの回復支援を専門している私  
が、ワンダーポートとの関わりの中で気づき学んだことをお話ししたい  
と思います。  
ワンダーポートでは、入所者が、ありのままの生き方で社会参加できる  
ような支援を活動指針にしています。この指針は、本来、あらゆる対人  
支援の現場の指針であるべきものですが、「専門性」という言葉によつて、  
いつの間にか、ともすれば人を分類して一律的な支援方法を押し付け  
ける方法がとられてしまっていることに気づかされました。施設を支援  
する私たち専門家の世界も同様で、専門家の視点で問題を分類し、その  
問題解決のみを行うことで専門家を名乗っています。対人支援とは、個  
別の問題の解決ではなく、その人を中心に置いた生活支援にこそ目的が  
あり問題解決はその過程に存在します。そのため支援方法は十人十色に  
なるのは必定で、手間がかかるものとなり、社会資源の連携が必要にな  
るのです。このような個別支援の原則が普及することが、わが国の深刻  
な自殺問題の解決指針にもなると考えています。

(午後の部 三重 DARC フォーラム)

■ファイザー研究発表「重複障がいを持つ薬物依存症者の地域移行・就労支援に関する研究及び報告」

- 1.断薬後に残る課題と新たな回復概念の獲得…市川岳仁
- 2.地域から見た東紀州プロジェクト～東紀州の現状と地域で働くこと、そして今後の展開について…大川真清
- 3.発達障がいの傾向を持つダルク利用者の一次産業へのマッチングと具体的支援…中村恵大
- 4.重複障がいがある時の働きやすさと働きにくさを考える…プロジェクト研究員
- 5.座談会

■環境に配慮し、公共交通機関によるご参加にご協力  
お願い申し上げます。駐車場の台数にも限りがございます。

■当日天候などの影響により中止とさせていただきます。こ  
ころの健康センターホームページ及び、こ  
ころの健康センターホームページにてご確認ください。

※近鉄・JR 津駅西口より三重交通バス夢が丘団地行き  
(看護大学夢が丘線)「人権センター」下車

※JR 紀伊線一身田駅より徒歩約15分

たくさんの方々のご参加を

こころよりお待ちしております。

